W2J

本科１期５月度

解答

Ｚ会東大進学教室

高２東大世界史

４章　中世ヨーロッパの成立と展開

問題

【1】

解答

問１　ア－④　イ－⑤　ウ－⑤　　問２　(b)－③　(c)－②
問３　(a)－⑧　(d)－④　　問４　エ－⑤　オ－⑤　カ－②
問５　(f)－④　(h)－③　　問６　(e)－⑤　(g)－①
問７　キ－⑤　ク－①　ケ－①　　問８　(i)－⑤　(j)－④
問９　(k)－⑦
（問７・８・９は次回以降の授業範囲である）

解説

問１．空欄アは基本事項。空欄イに関しては東西のローマ帝国の成立・滅亡の年号は必ず覚えておく。まずローマ帝国が東西に２分されたのは395年のテオドシウス帝の死によってである。その後，西ローマ帝国は395～476年まで，東ローマ帝国（ビザンツ帝国）は395～1453年まで続いた。東ローマ帝国は空欄ウのユスティニアヌス帝時代にイタリア半島の東ゴート王国と，北アフリカのヴァンダル王国を滅ぼし，一時領土を西地中海域まで回復した。

問２．(b)のアタナシウスの説はニケーア公会議（325）で正統とされた。これが三位一体説である。(c)のラヴェンナはカロリング朝フランク王国を建国したピピンがローマ教皇に寄進した地で，ローマ教皇領の起源となった。

問３．(a)．短文１は「ブルグント人」が誤り。ブルグント人はガリア東南部（中部ガリア）に建国した。よって短文２も誤りで，アングロ＝サクソン人の建国地はイングランドが正しい。短文３は「西ゴート人」が誤りで，正しくはヴァンダル族。西ゴート人はイベリア半島に建国した。

(d)．短文２は「東ゴート人」が誤りで，正しくはランゴバルド人。短文３は「メロヴィング朝」が誤りで，正しくはカロリング朝。

問４．空欄エは基本事項。空欄オは空欄前の「北方のゲルマン人」や，空欄後の「海上交易に従事したが，同時に海賊行為や略奪も働き」からノルマン人（別名ヴァイキング）と判明。空欄カは「13世紀初め」「教皇の権威は，絶頂に達し」からインノケンティウス３世と判明。彼に関しては第４回十字軍を提唱したことと，イギリス王ジョンを破門したことも覚えておくこと。

問５．(f)．マジャール人はアジア系民族で，955年にオットー１世に敗北した後，10世紀末にハンガリー王国を建国した。

(h)．「聖地」とあることからイェルサレムとわかろう。イェルサレムはユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の３つの宗教の聖地であり，このことは現在でもイェルサレムをめぐる紛争が続く一因となる。

問６．(e)．短文１は「843 年」が誤りで，正しくは 870 年。843 年のヴェルダン条約でフランク王国は３つに分裂し，さらに 870 年のメルセン条約で最終的に３国の国境が確定した。この３国がフランス・イタリア・ドイツの原形となる。

(g)．いずれも正文である。

問７．空欄キのボニファティウス８世はフランス王フィリップ４世にアナーニで捕らえられた。これが1303年のアナーニ事件である。その後，ボニファティウス８世が死亡するとフィリップ４世は教皇庁をローマから南フランスのアヴィニョン（空欄ク）に移した。この出来事が「教皇のバビロン捕囚」（1309 ～ 77）の始まりとなる。ローマ＝カトリック教会の権力の弱体化は，近代に入り絶対王政（空欄ケ）確立の一因となった。

問８．(i)．十字軍運動や農業生産力の増大を背景に中世社会は従来の自給自足が主であった状況から，都市の発達や貨幣経済の再生を見ることとなった。これを選択肢⑤の商業ルネサンス（別名は商業の再生）と呼ぶ。

(j)．経済活動が盛んになることで，農奴も貨幣蓄積の機会が増え，領主に隷属する農奴身分から脱して自由農民となる者が出現する。それが独立自営農民であり，イギリスではヨーマン（選択肢④）と呼ばれた。

問９．(k)．短文１は「フィリップ４世」が誤りで，正しくはルイ９世。アルビジョワ派は南フランスのアルビを拠点とした異端で，フィリップ２世が討伐軍を送り，最終的にはルイ９世が送った討伐軍により壊滅した。アルビジョワ派への討伐をアルビジョワ十字軍と呼ぶ。短文２は「カノッサの屈辱」が誤りで，正しくはアナーニ事件（問７の解説文を参照）。カノッサの屈辱は 1077 年に教皇グレゴリウス７世に破門された神聖ローマ皇帝ハインリヒ４世が謝罪した事件。

【2】

解答

設問１	問１	d	問２	b	問３	d	問４	b	問５	d	問６	d
	問７	a	問８	b	問９	c	問10	d				
設問２	問１	d	問２	e	問３	c	問４	d	問５	d		
設問３	問１	c	問２	c	問３	d	問４	c	問５	a	問６	b
設問４	問１	c	問２	b	問３	b	問４	d				

解説

設問１．問１～３．基本事項なのですべて正解したい。

問４・５．やや難問である。第１回十字軍はフランスの諸侯を中心に実施され，1099 年にイェルサレムを奪回した。この地をアイユーブ朝のサラディンが奪回したことを契機に第３回十字軍が実施される。

問６・７．第４回十字軍は教皇インノケンティウス３世の提唱を受けてヴェネツィアの主導で行われ，ビザンツ帝国首都コンスタンティノープルを占領した。この背景には地中海貿易の商敵であるコンスタンティノープルを占領することでヴェネツィアが地中海貿易の利益拡大をめざしたことがあった。

問８．難問。フリードリヒ２世はイスラームと西欧世界の接点であるシチリア島で育ったことから，イスラームへの理解があり，交渉でイェルサレム奪回を成功させた。だがイスラームとの交渉が西欧世界では批判され，聖地は再びイスラームの手に帰することとなった。

問９・10．ルイ９世が行った第６回十字軍ではエジプトのマムルーク朝と戦った。第７回もルイ９世が率いたが，彼は北アフリカのチュニスで病死した。

設問２．問１～５で示されている事項は必須年号であるが，選択肢の年号をすべて記憶しておく必要はない。消去法で解答に至れるものもあるが，選択肢にはかなり難しい年号も入っている。以下では必須の年号のみを示しておく。

問１．マグナ＝カルタ制定は 1215 年。選択肢中で必須年号は a のみであろう。大空位時代は 1256 ～ 1273 年。 d のポルトガルがカスティリヤから独立した年号は難しいが，1143 年。ただ，受験生としては「ポルトガルの独立は 12 世紀」と覚えて欲しいことなので，これを知っていれば解答できる。

問２．トゥール＝ポワティエ間の戦いは 732 年。選択肢中の必須年号は c と d である。西ゴート王国滅亡は 711 年。聖像禁止令は 726 年。残り２つはやや細かいが，私大を受験する予定であれば知っておくべきであろう。 a の後ウマイヤ朝成立と， b のピピンの寄進は同年の 756 年。

問３．カノッサの屈辱は 1077 年。選択肢中の必須年号は b のノルマン朝の成立で 1066 年。 a と d は年号は知らずともよかろう。私大を受験する予定であれば c の両シチリア王国建国も知っておいてもらいたい（1130 年）。

問４．百年戦争終了は 1453 年。この問の選択肢はすべて必須年号である。 a のフス戦争は 1419 年に開戦。 b のグラナダ陥落（＝ナスル朝滅亡）は 1492 年でコロンブスのアメリカ到達と同年。 c のビザンツ帝国滅亡は，百年戦争終了と同年の 1453 年。 d のワット＝タイラーの乱は 1381 年。

問５．オットー１世の戴冠は 962 年。この問の選択肢はすべて必須年号。ｃの西フランク王国でカロリング朝が断絶し，その後にａのカペー朝が成立するのは 987 年。ｂのクリュニー修道院創設は 910 年。ｄの東西教会完全分離は 1054 年である。

設問３．問１・２．メロヴィング朝を倒し，カロリング朝を 751 年に開いたピピンの行為を時のローマ教皇は支持した。これに対してピピンは設問２の問２にあったラヴェンナ地方の教皇への寄進を 756 年に行う。

問３～５．問３・４は基本事項。カール大帝は国内の文化振興のために多くの知識人を招いた。カール大帝による文化振興の動きをカロリング＝ルネサンスと呼ぶ。問５のアーヘンはやや難問であるが，私大では頻出事項。

問６．カール大帝の孫の時代に，843 年のヴェルダン条約でフランク王国は３つに分裂する（西フランク・中部フランク・東フランク）。さらに 870 年のメルセン条約で中部フランク領が東西に再分割された。

設問４．問１・２．「教皇のバビロン捕囚」については【１】の問７の解説文を参照。この期間（1309 ～ 77）は教皇庁はアヴィニョンに置かれたが，1377 年に教皇のローマ帰還が実現する。これに対してフランス王は再びアヴィニョンに教皇を擁立する。ここに教会大分裂（1378 ～ 1417）と呼ばれる，複数の教皇が並び立つ状況が生まれた。

問３・４．教皇のバビロン捕囚や教会大分裂に象徴される教会の腐敗に対して，イギリスのオクスフォード大学教授のウィクリフや，ベーメンのプラハ大学教授のフスが批判的態度を示した。コンスタンツ公会議では，ローマの新教皇を正統とし教会大分裂を収束させ，また教会を批判したフスは火刑に処された。この後にフスの支持者たちがフス戦争を起こした。

５章　中世ヨーロッパ社会の変質

問題

【1】

解答

空欄１－Ｓ　　空欄２－Ｒ　　空欄３－Ｇ　　空欄４－Ｋ　　空欄５－Ｑ
設問１－シャンパーニュ　　設問２－リューベック　　設問３－ツンフト闘争
設問４－職人組合　　設問５－ボッカチオ

解説

空欄１．ヨーロッパがアジアへ輸出した銀は南ドイツで産出されたものであり，南ドイツのアウクスブルクのフッガー家が銀山経営で繁栄した。毛織物はフランドル地方で製造されたものや，フィレンツェで製造されたもの。

空欄２．特許状を得た都市は，自治が保障された。特許状により都市の関税徴収・貨幣鋳造・裁判権などの慣習が成文化された。

空欄３．「イギリスでは」とあるので独立自営農民を意味するヨーマンが正解。

空欄４．解答のヒントがワット＝タイラーの乱の年号である。乱は 1381 年に発生したので，選択肢中でこの時期に発生した戦争を考える。百年戦争は 1339 ～ 1453 年の戦争なので，これが正解。

空欄５．ワット＝タイラーの乱に際して，説教僧のジョン＝ボールは「アダムが耕しイブが紡いだとき，だれが貴族（領主）であったか」との言葉で領主支配を批判した。この言葉は有名（頻出）なのでジョン＝ボールの名とともに記憶しておくこと。

設問１．北の北海・バルト海商業圏と，南の地中海商業圏を結ぶ中継商業圏も発達した。代表はフランス東北部と南ドイツの２地域である。解答では「フランス東北部の地方」が要求されているのでシャンパーニュが答えとなる。南ドイツではアウクスブルクやニュルンベルクなどの都市が発展した。

設問２．ハンザ同盟の盟主としてリューベックを問う設問は頻出。現時点ではハンザ同盟の加盟都市として，リューベック・ハンブルク（エルベ川河口の都市）・ブレーメンの３つを記憶しておいてほしい。この３都市は地図で位置も確認しておこう。

設問３．市政は当初，大商人で構成される商人ギルドが握っていた。これに対して手工業者は同職ギルドを結成して市政参加を要求した。結果，親方層の市政参加が実現していった。同職ギルドのことをドイツではツンフトと呼び，ドイツでの上記の動きをツンフト闘争という。

設問４．受験では難問である。徒弟制度の下では親方・職人・徒弟の厳然とした区別が存在し，親方は職人や徒弟を人格的にも支配した。不満を抱く職人は 14 世紀以降に待遇改善を求め職人組合を結成した。

設問５．ボッカチオの『デカメロン』は，ペストを避けた 10 人の男女が物語る形式で書かれている。

【2】

解答

問１　イ：アナーニ事件　　ロ：レヴァント　　問２　アウクスブルク　　問３　①

問４　③　　問５　①　　問６　④　　問７　②　　問８　④　　問９　②　　問10　①

解説

問１・２．イーフランス王フィリップ４世はフランス国内の教会（聖職者）への課税を実施しようとして，教皇ボニファティウス８世と対立した。1302 年に初の三部会を招集し国内世論をまとめたフィリップ４世は，1303 年にアナーニで教皇を捕らえた。ローイタリア都市は東方（レヴァント）貿易で銀・毛織物を輸出し，アジアからの香辛料・絹を手に入れた。ハーアウクスブルクのフッガー家は南ドイツの銀山経営で繁栄した。（【１】空欄１・設問１の解説文も参照。）

問３．第６・７回十字軍を率いたのはフランス王ルイ９世。彼は 1270 年に遠征先の北アフリカ（チュニス）で病死した。

問４．選択肢中で⑤以外は暗記しておくべき年号である。①の紅巾の乱は 1351 年に発生。②のティムール帝国成立は 1370 年。③のカルマル同盟の結成は 1397 年。④の金印勅書の発布は 1356 年。これらを暗記していれば⑤はわからずとも正解できる。⑤のペストの大流行は 14 世紀中期で，流行のピークが 1348 年である。

問５．ベーメンはチェック人による国家であるので,「セルビア人が多かった」が誤りである。

問６．日頃から地図を用いた学習を行っておくことが必要であることがこの出題から理解できよう。②のルーアンは位置を知らずともよいが，それ以外は位置を示せるようにしておくべき都市である。

問７．ブリューゲルは農民の生活を生き生きと描いたことで有名な画家。農村の風景や，無名の農民の暮らしぶりが感じ取れる。高校で用いている補助教材で選択肢の画家たちの絵画を見ておくこと（人間としてのささやかな教養のためにも）。

問８．やや難問であろう。④の「都市の多くは」が不適切で，「一部の有力な（大）都市は」とでも改めるべきである。他の選択肢は中世都市の特徴の代表的事項を示したものなので知っておいて損はない。

問９．【１】の設問２の解説文を参照。

問 10．難問の部類であろうが，私大受験予定者は知っておくべき知識である。カール５世はフランス王フランソワ１世と神聖ローマ皇帝の位をめぐり争い，その際にフッガー家の支援を得て皇帝位に就くことに成功した。

6章　大航海時代・宗教改革

問題

【1】

解答

〔空欄〕 ㈠ イベリア　㈡ グラナダ　㈢ バルトロメウ＝ディアス
㈣ トルデシリャス条約　㈤ 黒人

〔問い〕 ①　d　②　c　③　b　④　d

解説

〔空欄〕

㈠．イベリア半島はヨーロッパの南西部に位置し，８世紀以降イスラーム勢力の支配下に置かれていた。現在はスペイン・ポルトガルなどの国家がある。地図で場所を確認しておこう。

㈡．グラナダはイベリア半島最後のイスラーム王朝であるナスル朝の都があった都市で，この都市に建設されたアルハンブラ宮殿は有名。レコンキスタ完成とコロンブスの「新大陸発見」はともに1492年の出来事。

㈢・㈣．ポルトガル王ジョアン２世の時代にバルトロメウ＝ディアスの航海とトルデシリャス条約の締結がなされた。

㈤．中南米や西インド諸島では，過酷な労働や伝染病により先住民であるインディオが激減したため，代替労働力として黒人が奴隷として輸入された。

〔問い〕

①．中南米地域の文明では，ヨーロッパ人が持ち込むまで，鉄器は用いられていなかった。

②．マチュ＝ピチュはインカ帝国を代表する都市の１つであるが，インカ帝国の首都はクスコである。

③．オリーブは古代のギリシア・ローマで栽培されていたことが思い出せれば解答に至れる。（オリーブはアテネの代表的な輸出品であり，ローマのラティフンディアでも栽培された）

④．南ドイツのアウクスブルクはドイツとイタリア間の商業路上に位置し，商業と銀山経営で繁栄した。フッガー家は教皇や皇帝へも巨額な融資を行い，15～16世紀前半に全盛を迎えた。

【2】

解答

問１　イ　贖宥状（免罪符）　ロ　1517　ハ　アウクスブルクの宗教和議
　　ニ　1524　ホ　（ドイツ）農民戦争　ヘ　長老　ト　ユグノー戦争
　　チ　1534　リ　一般祈禱書

問２　魂の救済は教会への善行ではなく，聖書に基づく福音の信仰によると主張した。

問３　魂の救済は，人間からの働きかけによらず，あらかじめ定まっているとする立場。

問４　新教徒の信仰を承認し，個人での宗教選択の自由を認めた。

解説

問１．イ．金銭により現世での罪の処罰を免除するとした証書。ドイツ地域ではフッガー家が教会と結んで販売した。

ロ．ルターは1517年に九十五カ条の論題をヴィッテンベルク教会の門扉に貼り出し，宗教改革を開始した。

ハ．1555年のアウクスブルクの宗教和議で諸侯（と事実上都市）にカトリックかルター派かの選択権を承認した。同じ新教でもカルヴァン派は承認されず，個人の信仰の自由も認められなかった。

ニ・ホ．ミュンツァーを指導者に発生した農民戦争に対して，当初同情的であったルターは，彼らが農奴制廃止（現世秩序の否定）を主張するに至り，諸侯による反乱の鎮圧を支持することとなった。

ヘ．ルター派は旧来からの司教制を継承するが，カルヴァン派は独自の長老制を導入した。

ト．ユグノー戦争（1562～98）の最中に，カトリック勢力によるユグノー虐殺事件であるサンバルテルミの虐殺（1572）が行われた。

チ・リ．離婚問題を端緒に，カトリック教会の干渉排除をめざしたヘンリ８世は1534年に首長法を発布し，イギリス国王を宗教上の長とするイギリス国教会が設立された。エドワード６世は一般祈禱書を作成して，イギリス国教会の教義・典礼を定めた。イギリス国教会は教義面ではカルヴァン派的であり，儀礼面ではカトリック的である。

問２．カトリック教会は教会を地上における神の代理であるとし，教会への寄付・寄進などの行為を善行とし奨励した。ルターはこれを否定し，聖書に示された福音（イエスの言行）への信仰により魂の救済がなされるとした（信仰義認説）。そのために当時ラテン語で記され各国言語への翻訳を禁じられていた新約聖書のドイツ語翻訳を実行した。

問３．現世での人間が何を行ったかで魂の救済が決まるのではなく，あらかじめ神の意志によって決定しているとの主張が予定説。カルヴァンは各人の職業は神が与えたものであるので，各人の職業をまじめに行い，禁欲的な生活を送ることを訴え，その結果としての蓄財を肯定した。このカルヴァンの主張は当時の西欧の商工業者に普及することとなった。

問４．ナントの王令（1598）では，アウクスブルクの宗教和議（1555）では承認されなかったカルヴァン派と個人レベルでの宗教選択の自由が認められた。

7章　近世ヨーロッパ

問題

【1】

解答

問　(イ)　フランソワ１世　　(ロ)　オラニエ公ウィレム　　(ハ)　ウェストファリア条約
　　(ニ)　フロンドの乱

空欄　a － 32　　b － 29　　c － 8　　d － 17　　e － 15　　f － 14　　g － 10　　h － 26
　　i － 4　　j － 34　　k － 7　　l － 16　　m － 3　　n － 2　　o － 1　　p － 5
　　q － 15　　r － 21　　s － 20

解説

問(イ)．フランソワ１世はイタリア戦争でもカール５世と争った。

(ロ)．カルヴァン派（ゴイセン）であるオラニエ公を中心に独立戦争を戦い，ネーデルラント連邦共和国として独立したオランダでは，オラニエ家が世襲の総督となった。

(ハ)．ウェストファリア条約では①オランダ・スイスの独立承認，②カルヴァン派の承認，③神聖ローマ帝国内の領邦主権の承認，④フランスへのアルザス・ロレーヌ地方の割譲などが決定した。

(ニ)．ブルボン家による王権強化に対する貴族勢力の拠点となっていた高等法院の抵抗がフロンドの乱。反乱は内部分裂で弱体化し，マザランの力で平定された。

空欄 a・b．ハプスブルク家出身のスペイン王カルロス１世は，カール５世として神聖ローマ皇帝も兼ねた。カール５世時代の神聖ローマ帝国は国内ではルターの宗教改革が進行し，国外からはフランスとオスマン帝国の圧迫を受ける（オスマン帝国によるウィーン包囲がなされたのはこの時代である）。

c・d．フェリペ２世時代にスペイン絶対王政は最盛期を迎えた。無敵艦隊（アルマダ）と称されたスペイン艦隊はレパントの海戦でオスマン海軍を撃破した。しかし，その艦隊も1588年にはイギリス艦隊に敗北し，支配地オランダの独立でスペインの繁栄も陰りを見せ始めた。

e～g．ユトレヒト同盟で結束を固めた北部７州は，アムステルダムを都に独立した。独立以前にネーデルラント地域の中心であったアントワープ（アントウェルペン）が戦争中に大きな被害を受けたこともあり，アムステルダムは世界金融・商業の中心として繁栄した。

h～l．フランスでのカルヴァン派信者をユグノーと呼ぶ。シャルル９世の時代にユグノーとカトリックの内戦であるユグノー戦争が勃発した。ユグノー派の首領はブルボン家のナヴァル公アンリであった。戦争中にヴァロワ家のアンリ３世が暗殺され，王位継承者となったナヴァル王アンリは，アンリ４世としてフランス王に即位し，ここにブルボン王家によるフランス王が誕生した。ナントの王令（1598）では，アウクスブルクの宗教和議（1555）では承認されなかったカルヴァン派と個人レベルでの宗教選択の自由が認められた。

m ～ o．ルイ 13 世の宰相リシュリューは三十年戦争に新教側を支援してフランスを参戦させた。ルイ 14 世の宰相マザランの活躍でフランスは三十年戦争の講和条約であるウェストファリア条約でアルザス地方を獲得し，ブルボン家の国際的地位を高めた。財務総監のコルベールは重商主義政策を推進し，王立マニュファクチュア創設や東インド会社の再建に努めた。

p ～ s．ルイ 14 世が行った侵略戦争の中で最大のものがスペイン継承戦争（1701 ～ 13）である。ユトレヒト条約でルイ 14 世の孫をスペイン王フェリペ 5 世とすることで，ブルボン家のスペイン王が誕生するが，フランスがスペインを併合することは禁じられた。またこの条約での領土変更でフランス支配地であったカナダ東北部の地（選択肢 20）がイギリスへ割譲された。スペインからイギリスへ割譲された地（選択肢 21）の内，ジブラルタルは今日でもイギリス領のままである。

【2】

解答

1 ㈦　2 ㈤　3 ㈡　4 ㈠　5 ㈣　6 ㈥　7 ㈧　8 ㈨

解説

17 世紀から 18 世紀を中心としたヨーロッパ諸国のアジア進出をテーマとした問題。問われているのはどれも基本的な事項なので，全問正解が望ましい。

1．ネーデルラントの北部 7 州ではゴイセンと呼ばれる新教徒が多く，スペイン国王フェリペ 2 世のカトリック強化政策に反発して 1568 年に独立戦争が勃発し，1581 年にはネーデルラント連邦共和国として独立を宣言した。これが正式に諸外国から認められるのは，1648 年のウェストファリア条約においてであるが，この正式承認以前の 1602 年，オランダはスペインと対抗するためにアジア方面の貿易を統括する東インド会社を設立した。

2．西欧諸国のアジア進出拠点は地図でしっかりと確認しておくこと。バタヴィアは現在のインドネシアの首都ジャカルタで，オランダ領東インドの中心地となる。

3．オランダは香辛料貿易の覇権をイギリスと争っていたが，1623 年のアンボイナ事件以後，オランダが一手に香辛料貿易を独占した。

4・5．イギリスはオランダより 2 年早く東インド会社を設立しているが，その時の女王はエリザベス 1 世（位 1558 ～ 1603）である。また，問題文中の「17 世紀末からインド本土のカルカッタなどに交易の拠点を置き」とは，アンボイナ事件以後のイギリスの方向転換（東南アジア島嶼部→インド）をさしている。

6．フランスの東インド会社はアンリ 4 世（位 1589 ～ 1610）の時代の 1604 年に設立されていたが，経営不振であった。これをコルベールが重商主義政策推進の一環として 1664 年に再建した。

7・8．インドにおける英仏の抗争に関しては，まずは両者の拠点（イギリス：マドラス・ボンベイ・カルカッタ，フランス：ポンディシェリ・シャンデルナゴル）を地図上の位置とともに押さえておきたい。さらに，カーナティック戦争（1744 ～ 48，50 ～ 54，58 ～ 63），プラッシーの戦い（1757 年）について，同時期にヨーロッパで展開された抗争も含めて確認しておくこと。

W2J
高２東大世界史

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製